

第7回 津山市小中学校の将来構想検討委員会会議録 【概要】

○日時 令和4年8月26日（金）10:00～12:00

○場所 津山市議会棟 第一委員会室

○出席者

- ・津山市小中学校の将来構想検討委員会委員 7名
- 委員長 高塚成信（岡山大学学術研究院教育学域教授（特任））
- 副委員長 森本宏伸（津山市立鶴山小学校長（津山市小学校校長会））
- 委員 宮本有二（退職校長 現美作大学非常勤講師）
- 大山正志（津山連合町内会副会長（東苫田支部長））
- 櫛田晃稜（津山市PTA連合会副会長）
- 神田智弘（津山教育事務所次長）
- 菅原雅子（津山市立加茂中学校長（津山市中学校校長会））
- 事務局 教育長、教育次長
- 教育委員会関係課長等 8名

1. 開会

2. 協議（1）

（事務局）

提言に対する委員の意見を紹介。

- ・各章ごとのストーリーがつながること
- ・「はじめに」と「おわりに」にて委員会の考え方を明確に示すこと
- ・一定の選択肢に偏ることなくできるだけ公平な選択肢となること
- ・メリット・デメリットの数をそろえること
- ・小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校の違いを示すこと
- ・施設一体型と分離型とは分けて示すこと
- ・メリット・デメリットの観点が職員と施設面に偏っているため児童生徒の観点で項目をふやすこと
- ・学校統合は何と何との統合なのかを示すこと
- ・第Ⅲ章の体制整備の方策に、検討委員会としての考え方、方向性を示すこと
- ・メリット・デメリットを学習指導面、児童生徒の生活面、学校運営、地域連携の4つの観点でまとめること
- ・体制整備の方策は、過小規模校へ対応する場合と、小中一貫教育を進める場合とに整理すること
- ・分離型施設のメリット・デメリットを枠で囲って示すこと 等

提言書案の修正点を説明する。

- ・目次のタイトルに数ヶ所変更があり。第Ⅰ章の（２）「家族形態と地域社会」を「家族形態の変化」へ修正。２「本市の現状と課題」の「現状」を「状況」へ修正。（６）「学区」を「学区との関わり」へ修正。
- ・２「本市の状況と課題」の中、今後の対策として記述した部分を第Ⅱ章へ移動
- ・第Ⅱ章２魅力ある学校づくりの視点（１）「つながり学び合うことを保障する学校づくり」を「つながり学びあう学校づくり」へ修正
- ・第Ⅲ章、類型を示した後に方策を説明するように修正
- ・P11、①「学びに与える効果」を「学びに与える影響」へ修正
- ・P11、②中学校区を単位として体制整備を行う理由を整理
- ・メリット・デメリットを４つの観点に分類し、委員の意見と文科省の手引きから項目を追加。ただし、メリット・デメリットの項目数をそろえることは困難であった。
- ・P17、小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校の一体型とともに分離型も明記し、メリット・デメリットを記載
- ・P19、方策１から４をまとめた
- ・P21、方策５、６について、学校規模にかかわらず小中一貫教育による学校づくりを進めるための方策である旨を記載
- ・第Ⅲ章の最後に検討委員会の考え方を記載
- ・資料編を添付。

（委員）

委員の意見をできる限り反映し修正した提案書案について確認していきたい。

目次について、第Ⅲ章２「それぞれの種類のメリット・デメリットについて」は、目次だけを見ると「それぞれ」の指すものがわからない。そのため２は「体制整備の種類」でいいのでは。

（委員）

タイトルが、「（１）体制整備の種類」になると、「２体制整備の種類のメリット・デメリット」を逆にしたほうがよいのでは。また、学区についても包括するタイトルに変更願いたい。

（委員）

「２ 体制整備の種類とその他関連する事項」のようなタイトルに、また、「（１）体制整備の種類のメリット・デメリット」に修正したい。

(委員)

今まで2の4、「長期欠席・不登校」としていたのが、不登校だけに絞られたのは、何か理由があるか。

(事務局)

長期欠席は、不登校を包含する概念となり、病気で休んでいる子どもも含まれる。ここで論じられているのは、心の問題等で不登校になっているものを主眼としているので、不登校に特化して記述すべきと考えた。

(委員)

文科省の文書には、長期欠席と不登校は並記されているが、説明を聞いて趣旨はわかった。

(委員)

次に、P7について、8月2日案では、第I章の状況と課題の中に「対策」の言及があったが、ここでは、状況と課題を明記することに止め、対策は第II章に記載するということについてはどうか。

〈 全員了承 〉

(委員)

第2章では、繋がり学び合う学校づくりの保障という部分がわかりにくいので「保障」を削除している。

(委員)

P6について、全国・県小中学生の学力調査を受けて、その結果の原因の1つとして小中学校間の指導方法の違いとあるが、これは津山市だけの問題ではなく、これを改善すればよくなると読み取れる。どこの学校も小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校にすれば、学力が上がると思われるのではないか。

(委員)

全国的に小中一貫教育は進んでいない。それでも成果を上げている地域や県があるので、小中連携を進めていけば何とかなる、とは必ずしも言えない。学力調査の成績が改善しない大きな原因の1つとして、小中連携をクローズアップする仕方が極端ではないか。そこを改善すれば学力が向上すると暗示的に示唆しているのではないか。必ずしもそれだけで学力は改善しない。もちろん、小中連携を進めていかなければならないことは自明のことだが。

(事務局)

大切なのは、小中の指導方法が違うということが大きな理由というよりは、それぞれの学校文化の違いをしっかりと認識し、課題を共有して、さらなる取組を進めていく必要があるということである。そのため魅力ある学校づくりの中では、小中連携による学校づくりという考え方を示している。

前回の飯塚市の事例は、小中一貫型小学校・中学校にすると全ての課題が解消されるというのではなく、徐々に改善に向かっていることを紹介したもの。

小中の指導方法が違うということは原因の1つであり、また津山市に特化したものではない。表現の仕方が強すぎるということであれば、例えば、P 6の「指導体制の違いである」という表現を「指導体制の違いも背景として考えられる」と替えるのはいかがか。

(委員)

承知した。

(委員)

書式的なことであるが、段落を1行空ける場合と、空けない場合との明白な違いがあるか。2つの場合が混在している。基本的には改行して1文字下げているので、1行開ける必要はないが、読みやすさを考えると1行空けてもいいと思う。いずれかに統一したい。

(事務局)

国の報告書も段落が変われば、空ける場合もある。長い文章になれば、例えば、第2章、第3章3には長い文章が続く部分があるので、段落が変わったときには空けたほうが読みやすいと思う。いずれにしても、そろえた方が良い。

(委員)

一貫して、同じ原則で行うことでよいか。段落を変えるときに1行空けるかどうかは検討させていただくということではよろしいか。

〈 全員了承 〉

(委員)

2章の内容についてはどうか。

(委員)

第2章の(2)小中連携の部分では、「長期欠席・不登校」が残っているので、統一するのであれば「長期欠席」を削除したほうが良いのではないか。

(委員)

削除する方向でよろしいか。

〈 全員了承 〉

(委員)

P 7 (5) 地域に開かれた教育という部分で、「共働き世帯やひとり親世帯」により教育力が弱まっていると思う方もいる。表記の仕方についてどう思うか。

(委員)

明示的にそこまで書くのかということ。

私は、地域コミュニティの弱体化という用語があったので、これは地域の方も読まれる文書なので柔らかくしてくださいとお願いして修正もいただいている。これも同じことで、共働き世帯やひとり親世帯の増加と名指しをすると、その世帯の増加が課題の一因であるというふうにも読めるので、それらの世帯をイメージ的に示さない方が良いのではないかと思う。

(事務局)

「家族形態の変化」ではいかがか。

(委員)

家族形態だと核家族化しか思いつかないので。世帯の形態の多様化とか。何かイメージ的に示さない表現が良いと思う。読みようによっては自分たちが原因であると読み取られる可能性があるので注意したい。

次に、第Ⅲ章に入る。

11 ページでは、「効果」を「影響」に変え、②の中学校区を単位として検討を行うのかという理由をその前のパラグラフで示してもらい、そして、2のタイトルを体制整備の何々と変え、(1)を体制整備のタイプのメリット・デメリットというふうに階層性を意識したタイトルに変えていただいた。

12 ページ以降のそれぞれの選択肢のメリット・デメリットは、学習指導面、児童の生活面、学校の運営面、地域との連携面として、津山市振興基本計画の方針に示された4つの観点別にメリット・デメリットをまとめ、見やすくなったと思われる。

そのことによって学校運営面では、施設を維持するための経費や施設を建設するときの補助金なども入れていただくことができたと思っている。

第Ⅲ章がややこしくまた重要なところでもあるので、17ページのところ、指摘を受けて、施設分離型のメリット・デメリットを、4つの観点でまとめている。

メリット・デメリットの数を機械的にそろえることは、無理なことでもあり、考えられるものをなるべく入れてもらっているが、数はアンバランスが生じている。さらに付け加えることがあるのではないかと考えている。例えば、義務教育学校について、デメリットの児童生徒の生活面と運営面だけにまとめているが、地域連携面がない。義務教育学校や小中一貫型校では、統合した場合に地域連携面でマイナス面が出てくる可能性もある。ここで述べているのが、類型の1つ目は過小規模校（複式学級）で、次に近隣小学校との統合、3番目が小中学校一貫型小学校・中学校、4つ目が義務教育学校ということで、必ずしも統合する場合ばかりではないことは十分理解している。それでも次の方策を考えるときに、統合のところに踏み込んでいくわけなので、小中一貫型小学校・中学校にしても、義務教育学校にしても統合を含む場合には地域との連携面が、2の近隣小学校との統合で書いてあるマイナス面を持っているというふうに書いておかないと、あたかも近隣小学校との統合だけが、地域との連携面でデメリットを持っているとも受け止められるのではないかと心配している。ぜひそのことを述べていただきたい。

逆に17ページでは、施設分離型のメリット・デメリットが書いてあるので、メリットの地域との連携面では、学校が残っていて、地域との関係が密であり続けるということを入れておかなければならないと思う。

そのことによって、17ページでは、デメリットが圧倒的に多く書いてあるが、少しメリットも膨らませる必要があると思う。書き方は難しい面があると思うが、複数の小学校を統合した場合と、そうでない場合の両方を含んでの記述だと思うので、見えないようにしてしまっているのではないかと心配する。

(委員)

11ページだが、基本的な考え方の2行目、今後地域においては、中学校ブロックごとにこれを進めていくと読み取れるが、これでよろしいか。小学校区単位では考えなくて、中学校区単位だけで考えていくということか。

(事務局)

「地域においては」を削除する。

(委員)

もし削除してもよいのであれば削除する方向で。

(委員)

メリット・デメリットで、文科省の文章も調べたということだが、例えば、最初の複式学級では、小学校と中学校が入り混じっている。メリットの2行目に「部活動」が出てくる。次には「児童」が出てきて、小学校と中学校のことが混在している。

次に、デメリットでは、学習指導面で、点の位置がおかしいのではないか。

それから、男女の程よいバランスの中で学べないことがある、男女比については述べていないのではないか。「男女の構成比が偏りやすい」でもいい。その辺りのことがない。

それから、デメリットの2つめ、「1学年1学級の場合」とあるが、津山市の場合、全体の半数以上が1学年1学級の小規模校となっている。1学年2学級以上が良いという解釈になると津山市の半数以上が適さないことになる。ここでは複式学級のことに限定して書けばいいのではないか。

(委員)

メリット・デメリットの記述の際に、過小規模校(複式学級)は小学校のことに限定しているので、部活動などの中学校の用語は削除したほうが良いのではないか。また、過小規模校のデメリットは、複式学級に対するデメリットに限定した方がよいのではないか。1学年1学級の場合は、デメリットに限定した方がよいのではないか。次に、男女比の課題についても言及されたが、難しい話ではある。

(委員)

メリット・デメリットがたくさん増えた。他の文章よりも、やけにこの部分が詳しいなど思う。書き出しで、「主な」を加えて、例えば、「考えられる主なメリットとデメリットは以下のとおりである」とすれば精選していくことができるのではと思う。

(委員)

もちろん、これでもまだ「主な」の状態だと思う。さらに精選していくときに、何を残して何を削除するかについては、私たちや、一部の考えが優先して判断がなされ、削除されることは少し問題ではないかと思っている。そういう意味では、文科省や研究者の文章から考えられるメリット・デメリットをなるべく載せているので、その軽重については読む方が、地域や児童の実態に合わせて、「それはそれほど問題ではない」あるいは「これはメリットにもならない」と判断をされることに委ねるのかなと思う。

(事務局)

増えた部分について、文科省が適正規模として考える手引として示されている、一般的に考え得る内容の中からピックアップさせていただいている。

また、メリットも逆の見方をすればデメリットになるという考えを含み込んでいる。

さらに、基本的な考え方の2つの視点の中で、子どもの学びの中でどういった影響があるのかと、地域の住民の方の考え方として中学校区の中で考える必要があり、もちろんメリット・デメリットを絞ることもできなくはないが、あくまでも考えるのは、地域住民の方が中心となるので、ある程度の数を示すことが必要と考えた。

(委員)

これまで意見のあったメリット・デメリットを分け隔てなくあげている結果としてボリュームが増えている。もちろん、それは違おうだろうという項目があれば、削除や言い方を変える必要があると思う。非常に重要な第Ⅲ章であるのでしっかり意見を頂戴したい。

(委員)

「方策」を「類型」に変えてわかりやすくなった。

また、今出ているメリット・デメリットを削ることは難しく、数を増やすことで調整したことを理解した。項目の数が増えるのは仕方がない。全体的にはわかりやすくなったと認識している。施設分離型について、四角の中で書いてあるのでわかりやすいと思った。

(委員)

類型という言葉で、方策の前に選択肢を出していく。メリット・デメリットについては、4つの観点別にまとめていくことでわかりやすくなった。できるだけメリット・デメリットをあげていく方針の下で、文字は多くなくして、もう一度読んで見て削除や修正とするようになると思う。

(委員)

13ページの近隣小学校統合の地域との連携のところ、「地域活動や習い事、生活圏等の関係で子どもや保護者が顔見知りである場合が多く」とあるが、現状としては、私はそうでもないと思う。習い事も多様化しているし、幼稚園もなくなり、保育園も仕事の都合で違う地域に通うようになり、保護者の交流は以前に比べて少なくなっている。子供同士の交流はあるが保護者はそうではない。保護者ではなく、学校の連携で子どもたちが知り合いとなる、といった文章のほうが現実に合っているのではないか。

(委員)

基本的にはまとまっていると思う。この方向で進めば良いと思うが、今後、活用する方が、学校関係者以外も読まれるので、わかりやすい文章がよい。

例えば、12ページの「メタ認知能力」は、用語の説明にもないし、専門的な言葉は、あまり使わないほうが良いのではないか。

併せて資料は分けて作ることが、何回目かに決まったが、第Ⅲ章が一番重要なところなので、統合などの文章がずっと続いていて、何かわかりにくいと思う。

資料を見れば9ページに小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校など、図示してあるが、一番大事なのは、小中一貫型小学校・中学校には併設型と連携型があるというのが重要となってくる。この例を見ると、併設型はわかるが、連携型は異なる設置者でもできる。設置者

が異なる学校というのは、津山市には関係がない。津山市内にも岡山県内にも学校はない。この図よりは7月4日に施設一体型と分離型のイメージが示されたが、これが非常にわかりやすい。本文では図は省くと決まったが、せめてこの図だけでもあるとわかりやすい。

(委員)

新たな概念を、初めて目にする方は、文字ばかりではなく、絵や図を用いたほうがわかりやすい。一体型と分離型がわかるように、小中一貫型小学校・中学校と義務教育型との違いがわかるように本文中に入れたほうが良い。それができなくても、資料編には入れたほうが良い。結局、小中一貫型小学校・中学校の連携型には該当しない。また、併設型もよりわかりにくくなっている。併設というと一体型と同じように聞こえたりするので。あくまで、小中一貫型小学校・中学校であり、その中には一体型と分離型があるのであって、そこに連携型が加わると余計にわかりにくくなる。資料の差し替え、入れる部分の検討が必要となる。

(事務局)

資料については、基本的には提言書に続いての資料編としたい。また、文章に関連する注釈をつけたい。ただ、わかりにくい部分については、本文に示したいと思うが、基本的には資料編を分けることをご理解いただきたい。

(委員)

資料編が分けてあることは理解している。ただ、一部の概念がわかりづらい部分については、資料を本文に図示することが重要と思われる。

(委員)

資料について、本文に図何々と記して、資料編の図が参照できるようにする必要がある。施設一体型と分離型、併設型と連携型は入れるとわかりにくくなるので、入れなくていいものは省くことも必要。

(委員)

資料番号を本文中か脚柱に入れることになると思う。資料参照のような表記で。

19ページ以降の体制整備の方策検討の部分について過小規模校が発生する場合の方策として、1から4が挙げられていて、それぞれについてどんなことを注意しなければならないのか、メリット・デメリットとの関係で述べている。さらに、20ページでは、過小規模校が発生することの方策のみならず、小中一貫教育による学校づくりを進める上では、学校規模にかかわらず適正規模の学校においても、方策5、6を考える必要があるのではないかという流れにしている。そこに踏み込めたのは非常に大きいと考える。あくまで、津山市の小中学校の子どもたちの学習をどう支えていくかということ在意図して学校をどうしてい

くかということなので、過小規模校に留まらず、より広く学校のあり方を検討し、小中一貫を進めることが重要ということであれば、方策5、6に基づいて検討していくことになると思う。

(委員)

前回のときに、方策5、6について、「単独の小中学校同士の」とすると津山市においては1小1中のところが限られ、それよりは別のところでもそういう形になるという表記にしてはどうかと指摘したが、修正してその部分が反映されていると思う。

(委員)

資料について気になるのは、小中一貫校の事例。飯塚市の取組は、小中一貫型小学校・中学校で運営されているが、その特質というのは、小規模校を特認校として残しつつ、色々な学校からそこに入学を希望する方に開かれた取組もしているので、大きな枠組みとして小中一貫型小学校・中学校の例として挙げるのは良いが、現在の資料であればその部分が見えない。もう少し、飯塚市の取組が見えたうえで、例として1つの学校が挙げられている方がよいのではないか。なるべく、情報を別け隔てなく、制限なくオープンにしていくスタンスから、もう少し、大きな枠組みとして飯塚市の教育の有り様について示した方がよい。

(事務局)

資料としては、検討委員会の中で、取り上げたものとして出している。飯塚市や高知県の例にしても、小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校との違いを比べるために資料であるので、誤解を与えるようであれば削除する。

また、資料には津山市教育大綱や津山市教育振興基本計画を入れた方がいいか。

(委員)

基本計画等を抜粋した資料は必要である。

(副参与)

教育振興基本計画は抜粋したものを作成しているので準備したい。A4サイズにして4ページとなる。

(委員)

8ページの学区の資料について、1つの小学校から複数の中学校にいく場合に、わかりやすく色分けをする工夫があれば。

(委員)

これまでであった体制整備の方策一覧表がないが。

(委員)

本文に一覧表を入れ込んで、本文の記述を省略する案もあったが、全部を本文に入れることになって表が本文から無くなっているが、9ページに文科省の資料として、これで代替する形になっている。表の形で載せたほうが良い。

(委員)

全部でなくてよいが、方策を比べて、選んだらどうなるというようにフローチャート式になっていれば。津山がこれから本格的に進めていかなければならないと思うので。なるべく見やすく選びやすくしていただければ。メリット・デメリットも1ページぐらいに見比べられるようになっていけばいいと思う。

(委員)

本文で書いたものを表に落とし込んで行き、対比できるものを工夫できたら。本文で見比べることが難しいので。

(事務局)

資料編の中に入れるか。

(委員)

本文中でも資料でもどちらでも構わないが、表になっていけばわかりやすい。それがA4サイズで実現するのかどうかはわからないが。本文の中では、難しいかもしれない。

(委員)

資料の3ページだが、児童生徒数の推移が載っているが、自分の地域を気にして見ると思うので、中学校ごとの推移を載せられないか。小学校ごとはむずかしい部分もある。

(委員)

出せる範囲での資料で。これを元にして各地域で話が進むと考えるが、全体の提言書で、全部地域を載せていくかどうかは検討させていただきたい。

(事務局)

詳細に議論をいただき大変感謝している。これまでいろいろな意見をいただいたものをしっかりと入れ込んだ提言書を見ていただき、本日も細やかに協議していただいた。当初9月にもう1回委員会の開催をお願いしていたところだが、具体的な協議まで、詰めた協議が

できたので、協議自体について、今回で終了と考えているが、いかがか。

(委員)

当初、7回の予定でスタートして、途中でもう1回開催するかもしれないとの話でもあった。今日は資料まで含めて意見をいただいたので協議を終了しても良いとは思いますが。協議を終了してもよろしいか。

〈 全員了承 〉

(委員)

それでは、本日を持って協議を終了とさせていただく。本日いただいた意見を反映させて完成する提言書は、9月末に委員会を代表して教育長に提出させていただく。

本日で協議は終了するが、意見等があれば遠慮なく連絡していただきたい。期限は9月9日(金)とする。大きな修正があれば委員の皆さんに連絡し承諾を得ることとしたい。ただ、それ以降発生する軽微な修正は、委員長と事務局に一任いただきたいと思うが、よろしいか。

〈 全員了承 〉

(事務局)

概要版を作成したので原案を配布させていただく。これについても、ご意見をいただきたい。

(委員)

これについても意見等を9日までに連絡いただき、修正をさせていただきたい。

委員の皆様には、委員会に尽力いただいた。最後に意見や感想があれば、一言ずつお願いしたい。

(委員)

将来のことを考える機会を与えていただき、これから5年後、10年先の教育について考えることができた。皆さんともいろいろ議論を交わすことができて財産となった。

(委員)

これまで市民や教育に携わる者の立場で、いろいろな課題について考えていたが、このような機会を与えていただいて自分の中でも整理ができた。最初はどこに着陸したらいいのかと思ったが、段々明確になり、今日を迎えることができたことをありがたく思っている。これから具体的なことに入っていくが、参考にしていただける資料になったと思う。

(委員)

この会議の中だけではなく、事務局や委員長には、いろいろ意見を反映させるためにご苦労があったことを毎回感じていた。教育事務所としては、事務所管内の様子も伝えてきたが、この1年間の中でもいろいろな市町村から義務教育学校に向けての流れの質問等も多くいただくようになり、多くの自治体がこのように今後、直面するのかなと思うので、今後に向けていい勉強の機会となった。私も津山市民であるので津山市の学校が良くなればいいなと思う。

(委員)

自分自身の意見をなかなかうまく伝えられなかったが、個人的には大変勉強になった。先日、高校の校長と同じ話をしたこともあった。本当に切迫した課題であることを認識した。学校側としては、体制だけでなく、子どもたちの課題を少しでも改善できるように、今後も頑張っていきたい。

(委員)

なかなか、難しい内容であった。私も一保護者として、今回まとめることができた提言書で、津山市の学校に通う子どもたちと将来通うことになる子どもたちがいい方向に行っていただければいいなと切に願っている。

(委員)

我々としては、地域と学校がいかに密接につながっていくかということ課題だと考えている。先日町内会の協議の中で、ぜひ伝えてほしいと言われたことは、各学校の特色を紹介する場、例えば高田小学校では一人ひとりが自分で和紙の卒業証書を作成していること、また、獅子舞を子ども会がやっていること、そういった文化や歴史を各小学校で地元と連携して進めて行く方策を考えてほしいということである。

(委員)

津山市の縁もゆかりもない人間が、津山市の課題、とりわけ子どもが少なくなる中で体制整備の方策を検討させていただいた。前回にも申し上げたが、いかに子どもたちを支えていくのかについて、1つの方向に持って行くのではなく、そのためには証明していかなければならないのだが、教育の実証はむずかしいものである。こういった学校種であればこうなる、あるいは過小規模校であればこうなるということが証明されているわけではない。小規模校で学んだ方でも立派に成長している。あるいは不登校で長い間学校に来られなかった方でも社会でしっかり貢献されていることもある。あるいは地域社会の中で近隣の自治体においていろいろな考えを持った方が、学校をどうしていくかということについて一つの方

向を示されたときに大きな違和感を持ち、あるいは反対されることもあると思う。できるだけ、公平公正に体制整備のあり方について、考え得るメリット・デメリットを示し、地域の方と教育委員会がこれから議論される資料として活用していただければという方向で提言書をまとめさせていただいた。

第1回目の委員会にて、忌憚のない意見をちょうだいすること、他の自治体の事例から学ぶこと、とりわけ少数者としての周辺に追いやられた子どもたち、それはきっと過小規模校、あるいは不登校の子どもたちのことだと思うが、少数の子どもたちのことを最優先に議論したいと挨拶時に申し上げた。実現できたかわからないが、学区のことも含めて、これまで積み重なってきた課題についても言及でき、今後のよりよい津山市の教育の流れを作っていくことができる提言書になればと思う。

引き続き、津山市の教育をよくしていくために、尽力いただけたらと思う。

(教育長)

先ほどの協議により、本日第7回目を持ちまして、最終ということで挨拶申し上げる。委員の皆様には昨年9月から本日まで、計7回にわたって、学校や地域に対する熱い思いを持って、それぞれの立場から熱心かつ建設的な意見をいただき感謝申し上げます。途中、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響から開催を控えた時期もあり、その折には委員の皆様にはご心配、ご迷惑をお掛けした。特に日程調整についてご協力いただいたことお礼申し上げます。

本日こうして提言書案がまとまりましたことは、委員の皆様の多大なご尽力のおかげであり、深く感謝申し上げます。とりわけ、高塚委員長については、岡山の地から大役を引き受けていただいた。9月末には正式に提言書をいただき、その内容を踏まえながら、慎重かつ大所高所から本市の今後の学校教育のあり方等の基本的な方針を策定してまいりたいと考えている。その後は保護者や地域住民の皆様等、関係者からの意見を十分お聞きし、円滑な施策の展開が図られるように進めてまいりたいと思う。

終わりになるが、この提言書が本市の将来に向かって目指す教育の羅針盤として活かすことを約束するとともに今後の皆様のご健勝ご活躍をお祈りし、お礼の挨拶としたい。

閉会